

作成日 2001/02/07

改訂日 2016/05/20

安全データシート

1. 化学物質など及び会社情報

製品の名称： ムシュゲンLF
 製品コード： 00228-01
 会社名： 無臭元工業株式会社
 住所： 東京都足立区江北2-8-6
 電話番号： 03-3890-9156
 F A X 番号： 03-3890-6779
 e-mail support@mushugen.co.jp
 推奨用途および使用上の制限
 使用用途： 脱臭剤
 使用上の制限： 用途以外には使用しない

緊急連絡電話番号 (平日昼間)： 03-3890-9156
 (休日、夜間)： 080-3599-4957

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性・引火性ガス：	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール：	分類対象外
高压ガス：	分類対象外
引火性液体：	分類できない
可燃性固体：	分類対象外
自然発火性液体：	分類できない
自然発火性固体：	分類対象外
自己反応性化学品：	分類できない
自己発熱性化学品：	分類できない
水反応可燃性化学品：	分類できない
有機過酸化物：	分類対象外
支燃性・酸化性ガス類：	分類対象外
酸化性液体：	分類できない
酸化性固体：	分類対象外
火薬類：	分類対象外
金属腐食性物質：	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）：	区分5
急性毒性（経皮）：	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）：	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）：	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん）：	分類対象外
急性毒性（吸入：ミスト）：	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	区分2A
呼吸器感作性：	分類できない
皮膚感作性：	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない
発ガン性：	区分1A
生殖毒性：	区分1A
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：	分類できない
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：	分類できない
吸引性呼吸器有害性：	分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性： 区分3
水生環境慢性有害性： 分類できない



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 飲み込むと有害のおそれ
皮膚刺激・強い眼刺激
強い眼刺激
水生生物に有害
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
発ガンのおそれ

注意書き

予防策： 保護手袋を着用すること。取り扱い後はよく洗うこと。
保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。
使用前に取扱説明書を入手すること。すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
指定された個人用保護具を使用すること。

対応： 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付いた場合：多量の水と石鹸で洗うこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること皮膚刺激が生じた場合、医師の診断と手当を受けること。
目に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断手当を受けること。取り扱った後、手を洗うこと。
暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。

保管： 施錠して保管すること。

廃棄： 内容物／容器は国際／国／各自治体の規則に従って廃棄すること。

国/地域情報：

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物

成分	含有量 (wt%)
エタノール	0.46
有機酸塩	
pH調整剤	
有機酸	

4. 応急措置

吸入した場合：	空気の新鮮な場所に移動させ、鼻をかませ、うがいをさせる。
皮膚に付着した場合：	汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を水又は微温湯を流しながら洗浄した後、石鹼を使ってよく洗い流す。
目に入った場合：	直ちに清浄な水で15分間以上洗眼した後、専門医の手当を受ける。
飲み込んだ場合：	水でよく口の中を洗浄する。コップ1～2杯の水を飲ませ、直ちに医師の診断を受ける。意識のない場合は、口から何も与えてはならない。
予想される急性症状及び遅発性症状：	特になし
最も重要な兆候及び症状：	特になし
医師に対する特別注意事項：	特になし

5. 火災時の措置

消火剤：	粉末、炭酸ガス、泡、水スプレー
使ってはならない消火剤：	特になし
火災時の特定危険有害性：	なし
特定の消火方法：	不燃性。周辺火災の場合、速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合、容器および周辺に散水して冷却し消火する。
消火を行う者の保護：	消火の際には、必ず保護具を着用し、風上から作業を行うこと。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	作業の際には必ず保護具を着用する。
環境に対する注意事項：	特になし
回収・中和：	少量:ウェス等で拭き取り、残りは多量の水で洗い流す。多量:漏出した液は土砂等で流れを止め、吸着させる。又は安全な場所に導いて、水で希釈し、炭酸アルカリ、重炭酸アルカリ剤で中和し、多量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法・機材：	
二次災害防止策：	なし

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策：	皮膚からの吸収、眼との接触を避けるため、保護具を着用する。作業終了後、身体、手、口、眼、顔をよく洗うこと。
局所排気・全体換気：	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項：	手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後うがいをし、手、顔等をよく洗う。作業服に付着した場合はその汚れをよく洗い落とす。酸化剤、還元剤、塩基との混合、接触を避ける。
接触回避：	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	
技術対策：	特になし
保管条件：	直射日光を避け、密栓して冷暗所に保存する。
混触危険物質：	「10. 安定性及び反応性」を参照。
容器包装材料：	特になし

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度：	イソプロピルアルコール 200ppm
許容濃度：	イソプロピルアルコール 400ppm 980 mg/m ³
設備対策：	洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
保護具	
呼吸用保護具：	必要に応じて着用
手の保護具：	ゴム手袋
眼の保護具：	ガラス又は透明樹脂ゴーグル型
皮膚及び身体の保護具：	保護衣、ゴム長靴

9. 物理的及び化学的性質

形状：	液体
色：	無色透明
臭い：	香料臭
pH：	3.3±0.5(20°C)
融点・凝固点：	データなし
沸点、初留点および沸騰範囲：	データなし
引火点：	なし
爆発範囲：	なし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度（空気＝1）：	データなし
比重（密度）：	1.04±0.05(20°C)
溶解度：	水に任意溶解
n-オクタノール／水分配係数：	データなし
自然発火温度：	データなし
分解温度：	データなし
臭いのしきい（閾）値：	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル＝1）：	データなし
燃焼性（固体、ガス）：	データなし
粘度：	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性：	常温、常圧で安定
危険有害反応可能性：	自己反応性なし。
避けるべき条件：	火気、高温物との接触を避ける。
混触危険物質：	酸化剤、還元剤、塩基、金属との接触は避ける。
危険有害な分解生成物：	通常条件ではなし
その他：	鉄及びアルミニウムに対して弱い腐食性有り

11. 有害性情報

急性毒性（経口）：	製品として（推定値）4321.4 mg/kg	区分5
（経皮）：	データなし	
皮膚腐食性・刺激性：	皮膚、粘膜に刺激性がある。	区分2
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	眼に入ると刺激がある。	区分2 A
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	データなし	
生殖細胞変異原性：	データなし	
発ガン性：	区分1 Aの成分を0.1%以上含有するため、区分1 Aとした。	
生殖毒性：	区分1 Aの成分を0.3%以上含有するため、区分1 Aとした。	
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：	データなし	
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：	データなし	
吸引性呼吸器有害性：	データなし	

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性：	分類される成分の区分、含量から推定し、区分3とした。
水生環境慢性有害性：	データなし
残留性、分解性：	生分解性良好
生体蓄積性：	蓄積性なし
土壌中の移動性：	データなし
他の有害影響：	特になし
環境基準：	データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に委託処理する。空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に事業所系廃棄物又は産業廃棄物として処理する。

汚染容器及び包装： 同上

1 4. 輸送上の注意

国連分類：	該当なし
品 名：	該当なし
国連番号：	該当なし
国内規制：	規制されない
容器等級：	
輸送の特定の安全 対策及び条件：	容器が破損しないように水濡れや乱暴な取扱いを避ける。輸送中は直射日光を避け、雨水等の水濡れを防止する。

1 5. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法
(P R T R法)： 該当なし

労働安全衛生法： 通知対象物質 エタノール 0.46w/w%

毒劇物取締法： 該当なし
消防法： 該当なし
水質汚濁防止法： 該当なし

海洋汚染防止法： 該当なし

船舶安全法： 該当なし

航空法： 該当なし

港則法： 該当なし

1 6. その他の情報

この情報は新しい知見に基づき改訂されることがあります。ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。

記載内容の問い合わせ先 無臭元工業株式会社 研究室
東京都足立区江北2-8-6
TEL 03-3890-9156 FAX 03-3890-6779

- 引用文献
- 1) JIS Z 7253 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)
 - 2) 化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS)
 - 3) 日本産業衛生学会「許容濃度の勧告」
 - 4) 化学工業日報社「15308 の化学商品」

危険有害性の分類項目 (該当法規)

* 爆発性物質 (火薬類取締法)	* 禁水性物質 (消防法・船舶安全法・安衛法)	* 自然発火性物質 (消防法・船舶安全法・安衛法)
* 高圧ガス (高圧ガス保安法)	* 酸化性物質 (消防法・船舶安全法・安衛法)	* 急性毒性物質 (毒劇法・船舶安全法・安衛法)
* 引火性液体 (消防法・安衛法)	* 自己反応性物質 (消防法・安衛法)	* 腐食性物質 (船舶安全法・安衛法)
* 可燃性固体又は可燃性ガス (消防法・安衛法)	* その他の有害性物質 (化審法・安衛法)	

更新履歴:

- 2013/09/04 『9. 物理的及び化学的性質』の「比重」を変更。
- 2015/07/01 『15. 適用法令』労働安全衛生法の更新。
- 2015/07/01 『2. 危険有害性の要約』区分等を変更。
- 2016/05/20 補足情報の追加
- 2016/05/20 『2. 危険有害性の要約』の区分等を変更。

補足情報:

弊社安全データシート(以下SDS)は、使用する原料のSDSおよびNITEなどの公開情報に基づき危険有害性等の区分を規定している為、製品によっては、長期飲用による影響など、通常の使用用途ではあり得ない特殊条件下での有害性情報も含まれます。そのため、本SDS内に規定する使用用途を逸脱した特殊条件下における情報を含む場合には、補足としてNITEなどが公開する分類根拠等の情報を合わせて揭示致します。本SDS内容と合わせてご参照下さい。

※エタノールの発がん性 区分について

エタノールはACGIHでA3に分類されている (ACGIH (7th, 2012))。また、IARC (2010) では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされているため、区分1Aに分類する。

※エタノールの生殖毒性 区分について

ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。これらはヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるため、区分1Aとした。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。(一部抜粋)

※その他参考文献

一般社団法人 日本化学物質安全・情報センター 初期評価プロファイル
<http://jetoc.or.jp/safe/doc/J64-17-5.pdf> (工業化学物質としての使用に焦点が置かれた評価)